

令和5年度沖縄県全島緑化県民運動ポスター原画コンクール

審査講評

【小学校の部 講評】

友寄 英利 審査委員 (沖縄県美術教育推進協議会)

「小さな芽 この手で育てる 沖縄の未来」のテーマのもと、15点の応募作品がありました。

作品は、ポスターの目的を表現するために、その学年なりに思いや技術を駆使し、明るくのびのびと表現されていました。一つ一つの作品を審査員皆で厳しく丁寧に審査し、最優秀賞に次の二点が選出されました。

まず、一点目は、西辺小学校の砂川桜寿さん2年生の作品です。

作品は、大きな木で秘密基地を作り、友達と一緒に木登りしたり、植物や生き物との関わりを楽しく、動きのある作品を表現し、将来、もっと木々を増やし、遊びたいという思いが伝わる作品で見事でした。この作品は、沖縄県のポスターに掲載されることになりました。

もう一点は、有銘小学校の田中なつめさん4年生の作品です。ヤンバルクイナやアカショウビン、ノグチゲラ等の生き物と深く関わり、大事に育てたい気持ちが表現された素晴らしい作品でした。

【中学校の部 講評】

二宮 陸生 審査委員 (沖縄県造形教育連盟顧問)

緑化運動のポスターでは、中央に大木を配置し木の芽を両手で包み込むような左右対称の画面が好まれるようですが、今年度は中学生が自分なりの視点で主題をとらえようとする構図や新しい発想の作品が数多く集まりました。

「沖縄の青空の下で樹木を抱きしめる少女」、「大木を撮るカメラの画面から勢いよくあふれる植物、ゆるやかな曲線の木々の中でゆったりとハンモックで眠る自分」、「芽吹いた苗が巨木に成長するようにと願いを込めて差し出した手」など、優秀賞に選出された作品は中学生の独自の見方や考え方が生かされていたように思います。木々の枝や葉、画面に登場する昆虫たちの形や色彩もよく観察して描かれていました。また、「豊かさ」を象徴するモチーフも効果的に配置されていました。

中学部の作品は、全体的に根気よく時間を掛けて丁寧に仕上げている感じが感じられました。それらの作品は、テーマ「小さな芽 この手で育てる 沖縄の未来」を自分自身の成長に重ねているかのようで、豊かな自然の安心感の中で、夢に向かって主体的に歩もうとする姿を表しているようでした。

【高等学校の部 講評】

保久村 旭克 審査委員 (県立首里高等学校 美術教諭)

会場に入ると、目に飛び込んできたのは沢山の緑色。こんなにも色とりどりの緑があるのだなと感じたのが最初の印象です。床一面に並べられた作品はどれも力作ばかりで、モチーフをよく観察し、作品ときちんと向き合い、丁寧なタッチで描かれているそれらからは作者の思いが伝わってきました。

自然の力強さや生命力の美しさを感じる作品もあれば、ほっこりするような可愛らしい作品もあり、描く楽しさや喜びを感じることが出来ました。

今回、最優秀賞を受賞した赤嶺花音さんの作品は、人を惹きつける力強さ、説得力を持っています。テーマをストレートに表現した作品は、ゴツくも優しく包み込むその手に暖かさを感じ、美しい未来を予感させるモノでした。

何かと物騒で目まぐるしく変化する昨今、自由に描かれた子どもたちの作品のように、緑豊かで平和な日々がなるべく長く続くといいなあと思いました。